

商工観光部 商工労働課の方針書

組織名	商工観光部 商工労働課
所属長名	佐藤 和志

1. 組織の使命(ありたい姿)

市内事業者の事業継続及び拡大への支援、起業・創業促進により、地域の産業振興並びに市内の雇用維持・創出を図る。

2. 組織の抱える課題(現状)

- コロナ禍での地域経済停滞の克服
- 人口減少と地域経済縮小への対応
- 労働生産性向上と付加価値増大
- 多様な働く場の確保
- 直営温泉施設の経営

3. 今年度の『スローガン』

商工業の活性化が、まさに“にぎわい”を広げ、次世代へ II

4. 今年度の方針

- 市内事業者の事業継続及び成長を支援
- 雇用を生み出す起業・創業への支援
- 労働力確保への支援
- 若年者の就労、地元定着への支援
- 市有温泉施設運営の方針を示す

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市内事業者への支援により地域経済が活性化されている
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においてタイムリーな事業者支援を実施するとともに、ウィズコロナへの対応のほかアフターコロナを見据えた支援策を検討します。</li> <li>・商工業振興計画の適正な進捗管理を行います。</li> <li>・企業の事業継続・拡大のための“生産性向上”“産学共同”につながる技術力向上や人材育成等の取り組みを支援します。</li> <li>・国、県等を含む各種支援制度の利活用による投資意欲の醸成を図ります。</li> </ul>
(2)	実現したい成果	起業・創業への支援により起業家数が増加している
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなBizサポートよこてを核にし、起業家育成に注力するとともに、駅東口の賑わい創出を目指します。</li> <li>・商店街等の賑わい創出の見直しを図りながら、空き店舗活用による商店の集積の見直しを図ります。</li> <li>・起業する方に対して資金調達の支援を行います。</li> </ul>
(3)	実現したい成果	市有温泉施設運営の今後について方向付けられている
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組検証と市民アンケート結果を踏まえ、広く意見を求め、協議を進めます。</li> </ul>

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)市内事業者への支援による地域経済の活性化
- ①コロナ禍の事業者支援  
R4横手市プレミアム付商品券事業-第1弾販売[期間:7/19～8/31] 販売セット数 106,024セット(61.6%)  
現在第2弾販売の事務手続き中
- ②企業の競争力強化につながる事業者支援  
・産学共同研究支援事業費補助金 / 認定実績無(※予定案件を1件把握)  
・中小企業設備導入支援事業 / 10件(15,799千円)〈65.8%〉  
・中小企業人材育成支援事業 / 5件(560千円)〈18.6%〉
- ③国、県等を含む各種支援制度の利活用による投資意欲の醸成  
・地域再生支援利子補給金制度の活用に向けた地域再生計画の提出
- (2)起業・創業への支援
- ①起業・創業支援のための環境整備  
・Bizサポートよこて利用状況  
個室スペース 5者/6室 シェアスペース 0者/5室  
コワーキングスペース(延べ) 145人  
会員登録数 80人  
・起業ワンストップ相談窓口利用者数(延べ) 94人
- ②空き店舗利活用への支援  
・空き店舗等利活用支援事業補助金 / 6件(2,837千円)〈76.7%〉
- ③起業家に対する資金調達等の支援  
・起業・創業支援事業補助金 / 9件(4,220千円)〈50.2%〉
- (3)市有温泉施設運営の今後について
- ①市有温泉6施設の最終的な方向性案の決定  
・横手市議会産業建設常任委員会に提示(R4.5.24)⇒協議継続中
- ②返還施設の適正な維持管理  
・「さわらび」と「鶴ヶ池荘」の管理。「ゆーらく」解体着手(R4.8.8-11.15。19,800,000円)

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)市内事業者への支援による地域経済の活性化
- 【課題】
- ①コロナ禍に加え、エネルギー・原材料費が高騰し、地域経済への影響が大きくなっており、経営を圧迫している。  
②企業の競争力強化を目指す産学共同研究&人材育成の取り組み支援
- 【取組】
- ①エネルギー価格上昇を要因とした企業経営の悪化状況、エネルギー価格の今後の推移等を注視しながら情報収集を継続し、支援の必要性と内容を見極めていく。  
②製造業や大学、公設試験研究機関等への周知強化⇒企業の活用意欲促進
- (2)起業・創業への支援
- 【課題】
- ①Bizサポートよこての利用者数は増加傾向にあるが、さらに利用者を確保したい。  
②空き店舗解消と賑わい創出を図るための誘導的な支援策。
- 【取組】
- ①ソフト事業の実施により、Bizサポートよこてへの人流を増やし、PRと利用者の確保につなげる。  
②事業誘導につながる支援策を検討するとともに、現行補助事業も広くPRしながら有効活用を推進する。
- (3)市有温泉施設運営の今後について
- 【課題】
- ①市議会産業建設常任委員会における協議難航⇒大まかな合意時期未定
- 【取組】
- ①種々数値資料の提示⇒委員会側の意見集約促し⇒地域&施設従業員への説明⇒最終的な方向性の決定

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1)市内事業者への支援による地域経済の活性化

#### 【結果と成果】

①R4横手市プレミアム付商品券事業により、約12億円もの金額が市内に流通し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により停滞していた地域消費の喚起及び地域商業の活性化が図ることができた。

1.販売セット数 170,443セット(残1,557セット)

2.販売額 11億9,310万1,000円(販売率 99.09%)

3.換金額 11億9,030万5,000円(換金率 99.77%)

②企業の競争力強化につながる事業者支援を図った。

・産学共同研究支援事業費補助金 / 認定実績2件(175千円) ※予算額3,000千円

・中小企業設備導入支援事業 / 11件(17,799千円) ※予算額24,000千円

・中小企業人材育成支援事業 / 18件(1,322千円) ※予算額3,000千円

#### 【課題】

①コロナ禍に加え、エネルギー・原材料費が高騰し、地域経済への影響が大きくなっており、経営を圧迫している。

②企業の競争力強化を目指す産学共同研究&人財育成の取り組み支援の周知に注力。

### (2)起業・創業への支援

#### 【結果と成果】

①起業・創業支援のための環境整備

・Bizサポートよこて利用状況

個室スペース 5者/6室(うち2者はサテライトオフィスとして利用) シェアスペース 0者/5室

コワーキングスペース(延べ) 406人(2月末現在)

会員登録数 133人(2月末現在)

・起業ワンストップ相談窓口利用者数(延べ) 147人(2月末現在)

②空き店舗利活用への支援

・空き店舗等利活用支援事業補助金 / 8件(3,573千円)

③起業家に対する資金調達等の支援

・起業・創業支援事業補助金 / 13件(6,013千円)

#### 【課題】

①Bizサポートよこての利用者数は増加傾向にあるが、セミナー等を通して一層の施設の周知を図り、さらに利用者の増加を図りたい。

②空き店舗解消と賑わい創出を図るための誘導的な支援策の検討。

### (3)市有温泉施設運営の今後について

#### 【結果と成果】

・行政としての各施設方向性案確定は完了。

・議会委員会との協議も完了したが、議会説明と地域意見交換会は未着手。

・最終方向性案提示はR5.6議会に先送り。

#### 【課題】

・最終的な方向性の確定(R5.6議会メド)と具体取り組みに着手すること。

・方向性確定後の具体スケジュールがタイト。民営化の時期は、必要改修工事期間等の関係もあり当初想定したスケジュールより後ろ倒しとなる可能性が高い。

# 令和4年度

## 商工観光部 企業誘致課の方針書

組織名	商工観光部 企業誘致課
所属長名	平塚 和仁

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

地域経済が活性化している

### 2. 組織の抱える課題(現状)

多様な働く場の創出と人材確保

### 3. 今年度の『スローガン』

場を観る、空気を読む、タイミングを見計らう

### 4. 今年度の方針

- ・企業誘致による多様な雇用の場の創出に向けた取り組みを強化し、若者の地元定着を進め、多くの人が地元で活躍する横手を目指す。
- ・企業誘致を一層推進していくため、新たな工業用地の造成に取り組む。

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	新規企業誘致
	取組内容	・秋田県と連携した関西東海圏企業への誘致活動を継続する。 ・進出企業の円滑な操業に向け、きめ細かなサポートを行う。 ・社会情勢の動向や雇用環境の変化に着目したターゲット選定を行う。 ・Web会議ツールを活用し、状況に応じた誘致活動を展開していく。
(2)	実現したい成果	誘致企業への新卒者等の採用支援
	取組内容	・連携協定を結んでいるハローワークと合同で横手管内の高校6校への訪問と併せ、県内の大学・専門学校等へも訪問を行い、新卒者等の地元定着を促す。 ・企業と合同で県内高校を訪問し、就職担当教諭に市内企業の特徴や魅力をPRする。
(3)	実現したい成果	工業用地造成
	取組内容	・新たな工業用地の造成に向けた地権者への説明会、測量、土質調査等を行う。

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 新規企業誘致

- ・秋田県産業集積課及び秋田県名古屋事務所と連携し、集積を進めている自動車関連企業に注力しながらも、様々な分野の誘致活動を展開した。
- ・横手第二工業団地へ事業拡大及び市内移転に伴う誘致認定 1社(5月)、新規立地協定 1社(9月)。
- ・進出企業の円滑な操業に向け、Web会議等を活用し情報提供を行った。

### (2) 誘致企業への新卒者等の採用支援

- ・ハローワークとの横手管内高校への合同訪問 6校。
- ・誘致企業及び新規立地企業との高校及び専門学校への合同訪問延べ 28校。
- ・商工労働課との秋田県内の大学、高専及び専門学校への合同訪問 7校。

### (3) 工業用地造成

- ・地権者への事業説明会を実施した。
- ・必要な測量等の調査を実施中。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 新規企業誘致

課題 誘致活動及び操業に向けたサポート

方針 秋田県名古屋事務所に職員を派遣している強みを活かし、情報共有を密にしながら自動車関連企業への誘致活動を行う。また、進出を決めた企業へ円滑な操業となるようきめ細かなサポートを行っていく。マッチングイベントに出展し様々な企業へ横手市を広くPRしながら、県外企業のサテライトオフィス設置を促していく。

### (2) 誘致企業への新卒者等の採用支援

課題 次年度へ繋がる採用支援の実施

方針 市内にどのような企業があるのか分からないとの声があることから、R6年3月卒業予定となる現在の高校2年生へ市内企業情報の周知を行う。

### (3) 工業用地造成

課題 用地取得へ向けたスムーズな事業推進

方針 次年度の円滑な用地取得に向け、用地取得説明会(令和5年2月)等を行うことにより協力を得られるよう取り組みを進める。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 新規企業誘致

成果

- ・新規2社を誘致し新たな働く場(2社で操業時雇用90人)を創出できた。
- ・企業訪問は市内延べ97社、県内延べ24社、県外延べ103社。(内リモート会議が延べ23社)

課題

・横手市第二工業団地の分譲可能地はわずか1.9ヘクタールあまりとなり、当市内に用地を求めようとする県外企業の引き合いに応えることができない状況にある。

### (2) 誘致企業への新規高卒者の採用支援

成果

- ・ハローワークとの横手管内の高校への合同訪問6校。企業との県南地区の高校への合同訪問延べ37校。市内企業のPRのため大学等を県内7校、県外2校訪問した。

課題

・県南部の高校への市内企業情報の周知はもちろんのこと、今後も県内の大学・専門学校等へのPRに本格的に取り組みながら高卒者及び大卒者等の地元定着を促していく必要がある。

### (3) 工業用地造成

成果

- ・地権者へ事業説明会及び用地取得説明会を実施。用地測量及び設計、地質調査等の業務委託を全て完了した。

課題

・引き続き関係者の理解と協力を得ながら次年度の用地取得に向け事業を進めて行く。

令和4年度

## 商工観光部 観光おもてなし課の方針書

組織名	商工観光部 観光おもてなし課
所属長名	藤倉 幹夫

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

横手の観光の魅力を多方面に発信し、国内外からの誘客を進め、観光振興を地域・経済の活性化に結び付ける

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・コロナウイルス感染症の影響による観光活動や観光機運の回復
- ・インバウンドについては、情勢に合わせた臨機応変な対応と情報収集
- ・通過型観光から脱却するための市全体の回遊性の向上と滞在時間の延長
- ・横手市観光推進機構との関係による稼げる「観光地域づくり」の推進
- ・市内各観光団体はもとより、県、近隣市町村、JR、空港、NEXCO等との連携した誘客

### 3. 今年度の『スローガン』

時勢を見据え、新しくも持続可能な横手の観光を創る

### 4. 今年度の方針

第3次観光振興計画の推進

- ・安心安全な観光地としての受入体制の強化
- ・横手市観光推進機構(DMO)と連携した「観光地域づくり」の推進
- ・観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安心安全な観光地としての受入体制の強化
	取組内容	・新型コロナウイルスの影響下でも持続可能な伝統行事を含むイベントの実施方法を熟考し、集客・賑わいの創出を行います。 ・インバウンドでは、台湾を中心とする観光客と応援人口の増を目指しつつ、往来正常化まではオンラインを活用した交流事業、受入体制の整備・運用を進めます。 ・状況に合わせて必要とされる市内観光関連事業者の支援を検討・実施します。
(2)	実現したい成果	観光地域づくりの推進
	取組内容	・横手市観光推進機構(DMO)と連携し「観光地域づくり」を進めるとともに、「地域の稼ぐ力の創出」の後押しをします。 ・横手ならではの「コト体験」「着地型観光」を作り上げ、広く発信していきます。 ・ワーケーションの推進により、新しい生活様式での旅行先として選ばれるように事業展開します。
(3)	実現したい成果	観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進
	取組内容	・増田まんが美術館を中核に据え、マンガを中心に歴史・文化を観光の視点で発信し、観光施設、宿泊施設、交通機関を連携させることで全市回遊滞在型観光を進めます。 ・「かまくら」をはじめとしたまつりや伝統行事、豊かな自然環境、横手やきそばや発酵食品などの食文化、横手駅、横手公園展望台を活用して、横手の魅力の発信を行います。 ・JR東日本重点販売地域指定(7~9月)に合わせ、観光PR、誘客を行うと共に県南観光ルートについてもPR発信を進めます。

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### 1. 安心安全な観光地としての受入体制の強化

- ①コロナ対応を十分取りながら、ほぼ伝統行事・イベントを実施することが出来た。(各地さくらまつり、スカイフェスタ、平鹿あやめまつり、全国線香花火大会、大雄サマーフェスタ、送り盆まつり、横手駅東口まつり、増田の花火、山内いものこまつり)
- ②インバウンドについては、大同大学学生による横手市のPR動画(中国語版)の作成、地域通訳案内士育成計画の策定(一→下半期に育成事業実施)。
- ③市内観光関連事業者支援については、「市内宿泊支援事業」としてコロナ交付金を活用して冬期に実施することで予算化。

### 2. 観光地域づくりの推進

- ①観光推進機構へ市が補助金を支出する、もしくは事業委託する事業(横手駅前賑わい創出、秋田まるごと食の祭典、看板商品創出等)、機構が独自に国等から補助金採択された事業(かまくらライド、観光地再生・高付加価値事業等)の連携・後押しを進めている。
- ②観光庁の補助金を活用して、横手ならではの自然(山と川のある町)や釣り等の自然体験を発信し、観光商品化へ。(地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業。モニターツアー9/19～21 女子4人参加)
- ③ワーケーションについては、「さくら荘」「かま蔵」等を活用してモニターツアーを実施。(5/26～28 JAL社員3名参加)

### 3. 観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進

- ①全市回遊型観光を目指すため、デジタルサイネージによる観光情報の提供拡充、ラッピングタクシーの継続運行とモデルコースの情報発信を行った。
- ②横手の魅力の発信として、「横手の雪まつりin大阪城」の実施が決まり、準備を進めている。また、横手駅や横手公園(\*)を会場としてのイベント実施で主管する施設の魅力を発信した。(※音フェス、かまくらライドのエイドなど民間の実行委員会の事業にも協力)
- ③県南観光ルートの確立のため、観光推進機構、地域づくり企業人と連携し、季節ごとのモニターツアーを実施している。今後、旅行商品化へ向けて進めていく。また、JR横手駅での賑わい創出、歓迎として「横手駅東口まつり(9/11)」「発酵食品サミット関係装飾」を実施した。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### 【課題】

- 3年ぶりとなる「雪まつり」と、そのPRである「出前かまくら」を安全に実施する。(コロナ対応、子どもたちの協力)
- 宿泊業の閑散期となる冬期間の誘客を進める。
- インバウンドの再開に合わせて、準備してきた設備等を有効活用する。
- 大阪での誘客イベント事業を成功させ、「誘客」「大阪万博参加」等の目的を達成させる。

### 【取り組み】

#### 1. 安心安全な観光地としての受入体制の強化

- ・秋から冬に向けた伝統行事・イベントの安全な実施。(横手やきそば四天王決定戦、菊まつり、雪まつり、出前かまくら)
- ・宿泊支援事業の実施(12月～2月雪まつり前、1人1泊2,000円の助成)で冬期間の誘客の促進。
- ・インバウンド再開に向けて整備してきた、無料Wifi、多言語看板、多言語パンフ等の有効活用。台湾との友好事業の実施。
- ・地域通訳案内士の育成。

#### 2. 観光地域づくりの推進

- ・「地域の稼げる看板商品創出事業」モニターツアー → 旅行商品化へ
- ・地域おこし企業人、地域おこし協力隊との有効な連携。

#### 3. 観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進

- ・横手の雪まつりin大阪城と天神橋筋商店街における事前PRの実施で関西圏からの誘客増。
- ・「発酵食品サミット」「秋田まるごと食の祭典」と連携した誘客とおもてなし。
- ・全市回遊滞在型観光の推進のため、民間事業者の実証実験への積極的な協力の実施。(ジェイテクト音響ARの実証実験)

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### ■取組の結果

#### 1. 安心安全な観光地としての受入体制の強化

- ・観光行事については、新型コロナウイルス感染症の規制等も緩和され、ほぼ例年通りに開催することが出来た。当市最大の行事である「横手の雪まつり」についても3年ぶりに観光客を迎えての開催となり、実施形態などの完全復活へのリスタートを切ることが出来た。
- ・コロナ交付金等を活用して市内観光関連事業者の支援を行った。  
(宿泊支援事業:11/1～2/12 1人1泊上限2,000円の助成 利用者数15,788人)
- ・インバウンドについては、台湾大同大学との友好関係を基軸としてオンラインでの事業を進め、雪まつり時には学生2人に来横してもらい、横手の行事・情景を情報発信いただくなど直接の往来事業を再開させた。地域通訳案内士(英語)は7人を育成することが出来た。

#### 2. 観光地域づくりの推進

- ・「観光地域づくり法人」へ登録2年目となった横手市観光推進機構との連携と支援を行った。総務省の制度を活用した人的支援を実施した。
- ・コト体験(地域の稼げる看板商品創出事業)、ワーケーションはモニターツアー、PR動画作成を実施した。今後、旅行商品として組み込み、誘客のコンテンツとしてPRを進めていく。

#### 3. 観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進

- ・出前かまくらについては、首都圏(東京タワー、市川市)、関西圏(大阪城公園、大阪国際空港、加古川市、大東市)、友好都市(那珂市)で実施し、好評を得るとともに横手市のPRを進めることが出来た。特に、大阪万博への参画に繋げる意向の「大阪城公園雪まつり」については、集客、PR発信とも想定以上の成果を上げることが出来た。
- ・全市回遊型観光を目指すため、増田のまちなみの無料Wifi、デジタルサイネージを有効活用し、観光情報の提供を拡充させた。
- ・「発酵食品サミット」「秋田まるごと食の祭典」と連携した観光素材としての発酵食品のPRと誘客を実施した。

### ■成果

- ・各イベント、事業ともコロナ禍収束後の完全回復へ向けてのステップを踏むことが出来た。(第2次観光推進計画のアクションプラン実施率83%)
- ・最大のKPIである入込客数や宿泊者数などがコロナ禍前に近づいて来ているとともに、誘客のターゲットとして関西圏での事業の強化や誘客コンテンツとしての横手の里山・川への着目など新たな観光施策の方向性を示すことが出来た。

### ■次年度に向けた課題

- ・引き続き、第3次観光振興計画(R3～7年度)のローリングを行い、内容の具現化(事業化)を進める。
- ・これまでの観光客数を目指した誘客施策にターゲットとなる観光客の満足度を高める「質」を重視した誘客施策を加えていかななくてはならない。
- ・コロナ禍の収束が近づいているが、コロナ禍の間に担い手不足等で事業継続が厳しくなった行事や団体があり、観光(伝統)行事の価値と運営方法の再考を進めなくてはならない。

令和4年度

## 商工観光部 横手の魅力営業課の方針書

組織名	商工観光部 横手の魅力営業課
所属長名	松井 尊臣

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

横手産品の販路拡大支援、魅力ある地域資源のPR、横手ファンづくりが進み、市内事業者の所得向上と地域経済の活性化につながっている

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・横手産品の特徴を踏まえた販路拡大支援
- ・横手産品の認知度向上及びブラッシュアップ
- ・横手ファンの獲得と関係性の強化
- ・コロナ禍における消費動向の変化への対応

### 3. 今年度の『スローガン』

心に響く営業活動の推進！～真心とともに横手の魅力を届けます～

### 4. 今年度の方針

- ・多種多様な横手産品の販路拡大を支援する
- ・様々な手法により横手産品の魅力を発信する
- ・応援人口との新たな関係づくりを進める
- ・仙台圏への横手の魅力発信を強化する

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	国内外への横手産品の販路拡大支援の推進
	取組内容	・仙台圏・首都圏の小売店舗において販売促進活動を実施します。 ・首都圏外食産業をターゲットとした販路開拓を推進します。 ・商談会への出展を支援するとともに、バイヤー招聘等により商談の機会を創出します。 ・香港・マカオエリアをターゲットとした海外輸出の取組みを支援します。 ・横手産品販売支援アドバイザーと連携した販路拡大支援を推進します。
(2)	実現したい成果	継続的なPR、情報発信による横手産品の認知度アップ
	取組内容	・県内外での物産展の開催、イベントへのブース出展等により、横手産品をアピールします。 ・ふるさと納税の担当課と連携し、選ばれるための魅力ある商品づくりを支援します。 ・「横手の“んめもの”ポータルサイト」や「横手愛ツイッター」等により継続的に物産情報を発信します。 ・GIVいぶりがっこの生産及び販売に係る取組みを支援します。 ・「サポートthe横手愛」事業に継続的に取り組みます。
(3)	実現したい成果	横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化
	取組内容	・応援人口の交流拠点、市の魅力発信の拠点となる「横手応援拠点事業」を推進します。 ・よこてfun通信の発行(年4回)を通じて、ファンとのつながりを維持するとともに、更なるファンを獲得します。 ・応援人口をターゲットとした情報発信により、応援消費の拡大を図ります。



## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 国内外への横手産品の販路拡大支援の推進
  - ① 首都圏小売店舗において横手産品のフェアを開催した。(九州屋1回・サカガミ1回 各5店舗)
  - ② 「外食産業マッチング支援事業」(地方創生臨時交付金活用事業)の実施により、首都圏外食企業への横手産品(25商材)の売込みを推進した。
  - ③ 首都圏から食品卸・小売事業者のバイヤー等を招き、市内事業者とのマッチングや事業所訪問を行い、市内事業者の販路拡大を支援した。(計4回)
  - ④ セブン-イレブン社と連携した取組みを実施し、市内外での横手産品の認知向上・販売促進につなげた。(市内協力店舗での規格外野菜等の販売、セブン-イレブン販売商品への横手産品の供給)
- (2) 継続的なPR、情報発信による横手産品の認知度アップ
  - ① 県内外での物産展開催、イベントへのブース出展等により、横手産品のPR・販売を行った。(計6回)
  - ② 庁内ふるさと納税推進プロジェクトチームの一員として、市内事業者を対象とした研究会の開催や事業所訪問等を通じて魅力ある商品づくりを支援した。(研究会:4回・延べ13事業者参加、事業所訪問:15事業者・21回)
- (3) 横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化
  - ① 首都圏・仙台圏で横手市出身者が経営する飲食店を訪問し、横手応援拠店事業への協力を依頼。計8店舗から事業への賛同をいただき、横手応援拠店として登録し、当該事業を本格的にスタートさせた。
  - ② 市の公式SNSや物産展等を活用した情報発信により、よこてfun通信の新規読者を獲得した。(4月～9月 120人)

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 国内外への横手産品の販路拡大支援の推進  
【課題】横手産品の販路拡大と継続した取引の実現
  - ① 「外食産業マッチング支援事業」を遂行するとともに、継続取引の実現に向けた営業活動を行う。
  - ② 首都圏や仙台圏の小売店舗等への商品提案、及び販促活動を実施する。
  - ③ 海外販路アドバイザーと連携し、更なる国内市場及び海外市場における販路拡大を進める。
- (2) 継続的なPR、情報発信による横手産品の認知度アップ  
【課題】横手産品の効果的な発信
  - ① 引き続き、対面型での魅力発信を推進する。(県内外での物産展の開催、イベントへのブース出展等)
  - ② 伝統的工芸品全国大会(会場:秋田市)の開催を機に、横手市工芸品のPRを推進し、地域における工芸品の認知度を向上させる。
  - ③ ふるさと納税を活用した横手産品のPRを推進する。(返礼品として選ばれるための商品づくりの支援等)
- (3) 横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化  
【課題】よこてfun通信読者の獲得、応援人口・応援拠店との関係性の強化
  - ① 新規読者の獲得に向けた取組みを実施する。(読者紹介キャンペーン等)
  - ② 横手応援拠店を活用した魅力発信を推進する。
  - ③ 横手市物産団体連絡協議会との連携により、応援人口をターゲットとした横手産品の販促事業を実施する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 国内外への横手産品の販路拡大支援の推進  
【成果】「外食産業マッチング支援事業」の実施により、首都圏外食企業と市内事業者のマッチングを支援し、新たな取引につなげた。また、セブン-イレブン・ジャパンと連携した取組みでは、規格外野菜の販売やセブンイレブン商品への原材料供給等を通じて、横手産品の販売促進や販路拡大を図った。  
【課題】取組事業者や商品の掘り起こし、横手産品の現状に適した販路拡大支援の推進
- (2) 継続的なPR、情報発信による横手産品の認知度アップ  
【成果】3年ぶりとなる物産展「リトルよこて」や「いぶりがっこ祭り」の開催、自治体交流物産展への出展など、計23回の対面によるPR・販売機会を通じて、横手産品の認知度向上及び市内事業者の売上向上につなげた。また、ふるさと納税からの物産振興に向けて、事業所を訪問し魅力ある商品づくりを支援。その結果、商品のブラッシュアップとラインアップの増加が図られ、県内では返礼品数が最も多い市町村となった。  
【課題】横手産品のPR及び販売機会の確保、消費者に対する横手の魅力の効果的な発信
- (3) 横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化  
【成果】県内外のイベントでのPRや読者紹介キャンペーンの実施等により、よこてfun通信の新規読者を705人獲得し、物産購入等での応援が期待できる応援人口の増加につなげられた。また、横手応援拠店事業をスタートし、首都圏・仙台圏の11店を横手応援拠店に登録。応援人口の交流拠点、市の魅力発信の拠点となる場を創出した。  
【課題】よこてfun通信読者(特に若年読者)の獲得、横手応援拠店と連携した魅力発信の推進